

新春のご挨拶

鹿児島市薬剤師会 会長 谷口 欣平



新年明けましておめでとうございます。

鹿児島市医師会の先生方におかれましては、お健やかに新春を迎えられたこととお慶び申し上げます。また、かねてより、私ども薬剤師会の会員が大変お世話になっておりますことに、心から感謝を申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、ロシアによるウクライナ侵攻の長期化や停戦合意後も続くイスラエル・パレスチナ紛争など世界情勢は混沌としており、加えてアメリカの関税措置や中国との外交上の摩擦、さらには、世界的な物価高騰の波や気候変動による自然災害の多発化など、我が国を取り巻く情勢は厳しいものがあり、市民生活や経済活動に大きな影響があった1年でした。

そのような中で、日本の憲政史上初の女性総理大臣として、高市内閣が誕生し、物価高対策をはじめとした経済対策や女性の活躍推進などが期待されている一方で、連立政権の枠組みが大きく変わるなど、不確実性も残る政治面での変革の年となりました。

さて、令和8年がスタートしました。今年は、医療界にとって、診療報酬改定が予定されている重要な年であり、改定にあたっては、医療 DX の推進、医療従事者の継続的な賃上げと働き方改革、地域包括ケアシステムの深化と多職種連携、医薬品の安定供給と薬価制度の見直しなどが焦点となるようです。いずれにしましても、診療報酬改定は、医療機関や医療従事者にとって大きな影響を与えるものであることから、今後の議論や施策の方向性を注視していかなければならないと考えております。

私ども、薬剤師会といたしましては、少子高齢化の急速な進展、人口減少社会の到来に伴い、将来的な医療需要の縮小が懸念されている中で、人材の確保・育成、人件費や材料費の増大、電子処方箋への対応、災害対策への取組など多くの課題が山積しており、今後とも、市医師会の先生方のご協力を頂きながら、地域包括ケアシステムにおける医療と介護の連携拠点として、また、地域に根差した「かかりつけ薬局・薬剤師」として、その役割を果たしていくとともに、医薬品の安定した供給体制の確保に努めてまいりたいと考えておりますので、引き続き、市医師会の先生方のご指導を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

結びに、鹿児島市医師会の先生方のますますのご健勝とご多幸を心からご祈念申し上げます。新年のご挨拶といたします。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。